

熊野の
木林から

怪熊野

「古座の怪異」

其の四



和歌山大学
システム工学部
環境システム学科
中島敦司教授



古座沖の九龍島(くろしま)には洞窟が多くあり、海賊伝説の他、大地震の際に三本足で立ち上がって津波から逃れようとした、という話が伝わる。右側の島は鯛島。(写真はTakashi Deguchi氏の所蔵)

申本町と合併した旧古座町は、清流で名高い古座川河口から海岸にかけての漁師町である。その古座の海岸には「石投げんじよ」が出たという。漢字では「石投女」「石渚女」「磯渚女」の字が当てられるが、「ジヨ」の字は「尉」「つまり老婆だ」とする説もある。柳田 圀男は長崎の「石投げんじよ」を「五月の梅雨どき、もやの深くかかっている夜に漁をしていると

突然、大きな岩が崩れるような音が聞こえ、翌日以降の晴れ間にその場所に行ってみても、何ら異状はない」と記している。古座の話には、沖を通る船に向かつて石を投げつけるとか、たいそうな美女であったなどの話も加わる。同じ女の怪異として、荒磯海岸に山姥が棲み着き、水をくみに海岸に近づいた漁師を惑わしたり追いかけたたりしたという話も残るが、詳細は不明である。



弘法大師も修行した霊峰の重畳山(かさねやま)は女高野としても知られ、標高は高くないものの太平洋が一望にできる。写真中央には九龍島と鯛島が見える。

とのない洞窟が露出しただけの自然現象だと言う人もいる。

また、重畳山(かさねやま)の牛鬼(ウシオニ)の話は恐ろしい。ギョウキではなく、ウシオニだ。全身が真っ黒い毛におおわれた牛に似た巨大な怪物で、重畳山をゆり動かさんばかりの大声で吠える。相手の背後に実体を隠し、前には幻影、例えば若い娘の姿を見せ、油断させては背後から襲う。その昔、鉄砲のうまい若者に退治されたが、その若者は、恐ろしさのあまりに最後は狂死してしまつたという。昭和四十九年には目撃者が出て少し話題となつた。牛鬼の話とは関係ないが、重畳山には弘法大師が修行したことで開基された神王寺があり、阿弥陀、薬師、観音の熊野三山と関係の深い仏が祭られ、女人高野としても知られている。

中島敦司(なかしま あつし)教授プロフィール
昭和38年、岐阜県生まれ。三重大学大学院生物資源研究科博士後期課程を修了。平成8年から和歌山大学システム工学部講師、12年から助教授。19年から教授。専門は森林生態、自然再生、砂漠緑化、海岸林再生、地域資源、地球温暖化、自然エネルギー、民俗(妖怪、伝承)。NPO活動にも力を入れる。熊野方面には年間30〜50日は訪問し、研究する。

